

広島研修

市では、平和宣言都市の具現化として、平成23年度から市内3中学校の2年生が広島に出かけ、平和の大切さについて学んできました。これは、本市の平和教育の中心に据えられている事業です。これから毎号、広島研修後に生徒が書いた作文を掲載していきます。将来、市を担う生徒たちが、被爆地広島で何を見て、そして何を感じたのか、その貴重な学びは、本人たちの未来、そして市の未来につながっていきます。

令和2年度広島研修

▼日程

11月10日(火)～11日(水)

弥富中学校

11月11日(水)～12日(木)

弥富北中学校

11月12日(木)～13日(金)

十四山中学校

▼行程

1日目	2日目
J R 名古屋駅 ↓ J R 広島駅 ↓ ※観光バス ・平和記念公園 ・昼食 (戦時中の食事体験) ・平和記念公園での見学・研修 ※徒歩 原爆ドーム、平和記念資料館、 平和の灯、折り鶴の献呈式 など ↓ ※観光バス(フェリー) ・江田島青少年交流の家 入所式、オリエンテーション、 夕べのつどいなど ・夕食 被爆ピアノの演奏会と講話	・江田島青少年交流の家 ↓ ※観光バス 各校の案による研修 (平和記念公園での講話など) ↓ ※観光バス J R 広島駅 ↓ J R 名古屋駅

過去の姿 未来の姿

弥富中学校 鈴木 悠仁

【原爆ドームの姿】

原爆ドームはとても悲惨な姿だった。骨組みは鉄で、そのまわりをレンガを積み重ねて造った、かなり頑丈な建物だった。しかし、鉄は飛び出し、天井は崩れ、今にも倒れるのではないかと思うほどボロボロだった。話によると中にいた人たちは全員即死だったらしい。こんなにも丈夫に造られていた原爆ドームでさえ崩れさり、中にいた人たちも即死という被害を聞いて改めて原爆は怖いと思った。

僕は被爆門柱という原爆ドームの門だったものに座った。座れる世界遺産とだけ聞けばワクワクするが、原爆を学んできたからこそ、このときはワクワクなどなく、ただただ胸が苦しくなるようだった。そして、原爆の被害を目で見て、触れてみて、よく考えて、感じたことの全てを大切にしたいと思った。



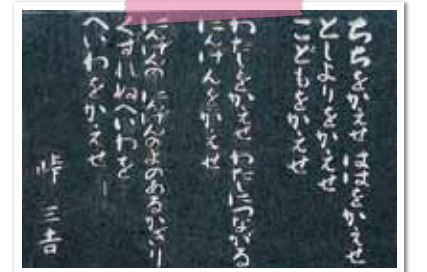
【放射線被害の姿】

原爆で受けた火傷の痕は痛々しく、目も当てられないほど残酷な姿だった。皮膚がただれるほどの火傷を全身に負った人がどんな行動をするか考えた。「水を求める」そこまでは想像できた。それから先のできごとは全く想像できない、したくないことだった。それは被爆者が川に飛び込んだことだ。その川は、その後死体で埋もれたらしい。

放射線被害はこれだけではなかった。放射線を受けた人は助かったと思ったところに、体に紫の斑点が表れ、高熱、がんなど様々な症状で苦しんだ。そんな生きることが辛くなるような被害が僕は本当に怖かった。この話を聞いたからこそ、川辺で合唱をしたときは、今までで一番気持ちのこもったよい歌になったと思う。

【未来の姿】

僕は広島研修に行って、その残酷な過去の姿を見てきた。当時の大人たちが忘れようとしていた過去を当時の中学生が残そうとしたからこそ今の広島があると知ったとき、戦争を知りたくはなかったけど、知らなければいけないと思った。そして、僕たちは当時の中学生が残したのを知り、反戦への意識が高まった。そのことを伝え、広げるのが僕たちの役目だ。だからこそ、平和な未来の姿を築くのは僕たちの役目だと思った。



平和を語り継ぐ

弥富中学校 平賀 巴菜

【胸に抱えた弁当】

原爆の被爆地から約600mほど離れた位置で、県立第二中学校の生徒たちは8月6日、建物疎開の作業をしていました。入学してわずか4か月で工場などに働きに出ていたそうです。生徒たちは正面から原爆の閃光を浴び、ほとんどが即死でした。その被爆者の一人、折免滋(おりめんしげる)くんは、胸に弁当を抱えた状態で見つかったそうです。その弁当には、滋くんが初めて畑から収穫した作物で作ったおかずが入れられていました。



【アオギリの木】

被爆地から約1.3kmほど離れた場所に「アオギリ」という木が立っていました。当時22歳だった沼田鈴子さんは、原爆によって膝から下を負傷しました。片足を切断することになってしまった沼田さんはショックのあまり自殺まで考えたそうです。そんな中、アオギリの木に出会い、焦げてしまってもなお立ち続けている勇ましい姿に沼田さんは感動し、自殺を思いとどめることができました。その経験をもとに、沼田さんは2011年に亡くなるまで、「アオギリの語り部」として平和の活動に力を注ぎました。



【平和の大切さ】

2日間を通して、広島で平和の大切さを改めて感じる事ができました。「滋君弁当」は少量のおかずと豆の入った米で再現されていました。当時は十分豪華だったその弁当も、今幸せに暮らせている私たちにとっては物足りなさを感じました。でも、それは今が幸せだから感じる事です。当時の方々があの時代を乗り越えてくれたからこそ、今の私たちがいるということを忘れないでいたいです。また、二度と戦争というものが起こらないように、後の世代に語り継いで、平和な世の中になっていくことを願っています。